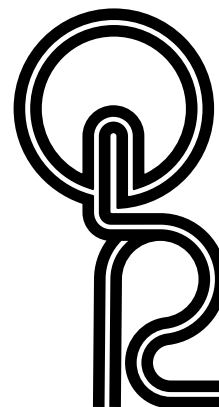


# QR Newsletter



## 第四紀通信

Vol. 14 No.1, 2007



「槍・穂高連峰」五百沢智也 作  
雑誌「岳人」(東京新聞出版局)の連載のために描かれたもので、「鳥瞰図譜=日本アルプス」(講談社)p.67に掲載。千葉県立中央博物館展示会「山の科学画」-五百沢智也の描く山岳鳥瞰図の世界-(2007年3月3日(土)~5月27日(日))で展示。

Vol. 14 No. 1

February 1, 2007

2007年大会案内(第1報)..... 2	地球惑星科学連合2007年大会案内..... 6
INQUA大会のお知らせ..... 2	堆積学会例会案内と講演募集..... 12
講習会のお知らせ..... 3	千葉県立中央博物館展示案内..... 13
高精度 <sup>14</sup> C年代測定研究委員会シンポジウムの案内..... 4	幹事会議事録..... 14
投稿のお勧め..... 5	会員消息..... 15

## 日本第四紀学会2007年大会案内(第1報)

第四紀学会2007年大会が、下記の日程で実施される予定ですのでお知らせします。その詳細や発表の申込方法などにつきましては、次号の第四紀通信に掲載いたします。

開催期間：2007年8月31日(金)～9月2日(日)

開催場所：神戸大学百年記念館(兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1)

日程：

8月31日～9月1日 一般研究発表(口頭及びポスター)

9月2日 シンポジウム「瀬戸内海の変遷 - 自然, 環境, 人」(仮題)

なお、シンポジウムは全て指名講演となっています。

このほか、9月1日には一般市民を対象とした普及講演会「大地の変動と地震・津波」(仮題)が同じキャンパス内の滝川記念学術交流会館にて、また9月3日～4日には巡検が行われる予定です。

## 国際第四紀学連合(INQUA)第17回大会のお知らせ

国際第四紀学連合(INQUA)第17回大会は2007年7月にオーストラリア・ケアンズで開催されます。本大会はグレートバリアリーフに抱かれた熱帯のリゾートでオーストラリアと周辺地域の第四紀研究者との共同で開催される魅力にあふれる大会です。また、INQUAは2005年に学術連合としてICSU(国際科学会議)のメンバーとなり、本大会では世界の第四紀研究の新たな展開を目指しています。日本からも多数の研究者が参加して、研究発表、研究委員会活動、国際交流を進めて下さることを期待します。なお、大会の情報発信と講演要旨・登録の受け付けはすべて、大会ウェブサイトで行われます。

ケアンズ大会ウェブサイト：<http://www.inqua2007.net.au/>

会期：2007年7月28日～8月3日

会場：ケアンズコンベンションセンター，ケアンズ，オーストラリア

発表申し込み締切：2007年1月31日

(締切日は過ぎておりますが、変更がないかウェブサイトで確認してください。)

登録料：2007年3月31日以前，一般：\$800，学生・退職者：\$585

2007年4月1日以降，一般：\$900，学生・退職者：\$685

(\$: Australia Dollar, 2007年1月4日の為替レート = 94.35円)。

登録ウェブページから宿舎の予約もできます。

エクスカージョン：オーストラリア各地，ニュージーランド，パプアニューギニアなど。詳細はウェブサイトをご覧ください。

## 日本第四紀学会第12回講習会のお知らせ

### 「貝化石群集を用いた古環境の復元法」

貝化石は、野外で見つけやすく、直接自らの手で採集できる大型化石です。また、採集後の処理も手軽であり、だれでも貝化石の標本をつくることができます。貝類をはじめとする海洋の底生生物群集は、生息場所の環境（底質・水温・水深・塩分など）と深い関係を持っていることから、貝化石群集や堆積物に基づいて、それらが堆積した時代の古環境を推定することができます。また新しい時代の貝化石には現生種が含まれていることが多いため、生態的情報を直接あてはめることもできます。

今回、工事露頭の出現にあわせて、貝化石の産状観察、採集から標本づくり、遺骸群集のとらえ方、そして貝化石群集から読む古環境について、実践的に理解を深めるための講習会を企画しました。基本的には大学等で、貝化石に関して野外における調査・記載や、室内における作業方法などを本格的に学んだことがない（または勉強中である）人を対象とします。

月日：2007年3月10日（土）・11日（日）

場所：神奈川県横浜市下飯田遊水地付近（10日）

神奈川県立生命の星・地球博物館（11日）

講師：松島義章・田口公則（神奈川県立生命の星・地球博物館）

日程：

10日

集合：午前9時30分、小田急「湘南台」駅改札前（相鉄線、横浜市地下鉄のターミナルです）。

その後、湘南台駅より徒歩で境川遊水地工事現場へ移動（徒歩20分）。

内容：工事現場法面露頭で見られた露頭解説、下末吉相当層の観察、貝化石産状の観察、貝化石サンプリングなど

解散：午後2時頃現地解散予定。

11日

集合：午前10時00分 神奈川県立生命の星・地球博物館3階実習実験室（箱根登山線「入生田」下車徒歩3分）自家用車可（博物館駐車場あり）。

内容：採集化石のクリーニング作業、貝化石の同定、貝から見た縄文海進の古環境復元（講義）、貝の計測実習など

解散：午後3時頃予定

定員：18名程度（申し込み順）

持参物：1日目は、弁当、長靴（状況によって冠水部やぬかるみを歩きます）、野外調査に必要なもの（ピックハンマー、ドライバーもしくは千枚通し、ブラシ・ハケ、ルーペ、ねじり鎌、サンプル袋、折尺など）。

参加費：1000円程度（材料費）。当日徴収いたします。

申し込み方法：下記連絡先あてに、氏名、住所、所属、連絡先の電話番号、e-mailアドレス、実習に関する要望などを書いた申込書を、e-mail又は往復はがき、又はファックスにて申し込みください。

申し込み・連絡先：

〒250-0031 小田原市入生田499 神奈川県立生命の星・地球博物館  
田口公則（e-mail:tagu@nh.kanagawa-museum.jp）  
fax:0465-21-1515

締切：2月27日

## 第4回高精度<sup>14</sup>C年代測定研究委員会(公開シンポジウム)開催のお知らせ

2000年第四紀学会大会(歴史民俗博物館にて開催)におけるシンポジウム“21世紀の年代観 - 炭素年から暦年へ”およびその際に発信された“佐倉宣言”を受けて、高精度<sup>14</sup>C年代測定に関する最先端の研究状況や基本的な知識を学会員に対して普及する事を目的として研究委員会が設置されました。この研究委員会の活動として、2002年3月3日に、日本大学にて第1回の公開シンポジウムを、2003年2月15日及び2006年3月21日に、東京大学にて第2,3回目の公開シンポジウムを開催いたしました。これまでに、<sup>14</sup>C年代較正、海洋リザーバー効果とその補正、新しい較正データセット(IntCal04)の概要と2.5万年前より古い<sup>14</sup>C年代の較正を取りあげてきました。この間、学会会員の方には、<sup>14</sup>C年代較正については知識が深まったと思いますが、全体的にはまだまだのようで、今後も、この公開シンポジウムを継続する必要を感じております。

さて、この度、第4回目の公開シンポジウムを2007年3月17日(土)に、東京大学にて開催いたします。今回は、<sup>14</sup>Cウイグルマッチングに焦点を当てます。樹木の年代測定では、年輪年代法が適用できる場合には、年輪の年代が誤差無しに決まります。しかし、一方で、年輪年代法は、樹種、生育場所や環境などの要因による制限を受けます。<sup>14</sup>C年代測定法では、樹種によらず、樹木の単一年輪について年代を推定できます。最近では加速器質量分析法(AMS法)により、<sup>14</sup>C年代は $\pm 20 \sim \pm 40$ 年の誤差でもとまります。これを較正すると誤差は一般に大きくなりますが、樹種によらず、年輪の暦年代を推定できます。さらに、1本の樹木について複数個の年輪を測定して得た複数の<sup>14</sup>C年代を較正データと比較(これをウイグルマッチングと称する)すれば、年輪年代の推定の正確度は格段に向上します。

このような<sup>14</sup>Cウイグルマッチング研究の現状および将来の展望を目的として公開シンポジウムを開催します。<sup>14</sup>Cウイグルマッチングの概要と応用例、より高精度の年輪年代推定に向けての検討、高精度年代推定を必要とする自然災害予測への利用、さらに考古学における土器の編年や文化財資料への利用などについて、話題提供をして頂きます。

年代測定、年代利用や編年に係わる研究者は、第四紀学会会員、非会員に関わらず、ご出席のうえ、議論に参加していただきますようにご案内いたします。

日時：2007年3月17日(土) 13:00～17:10

場所：東京大学法文2号館1階第1大教室(東京都文京区本郷 安田講堂前のビル)

オーガナイザー：中村俊夫、辻 誠一郎、今村峯雄、奥村晃史、松浦秀治

主催：日本第四紀学会高精度<sup>14</sup>C年代測定研究委員会

参加費：無料

### プログラム：

座長：松浦秀治(お茶の水女子大学)

13:00-13:50 「<sup>14</sup>Cウイグルマッチングとその応用」

今村峯雄(国立歴史民俗博物館)

13:50-14:15 「<sup>14</sup>Cウイグルマッチングによる数年の誤差による年代推定の試み」

中村俊夫(名古屋大学)

14:15-14:40 「日本産樹木年輪試料による<sup>14</sup>C年代較正の試み」

尾崎大真(国立歴史民俗博物館)

14:40-15:00 休憩

座長：辻 誠一郎(東京大学)

15:00-15:30 「自然災害予測のための高精度<sup>14</sup>C年代」

奥村晃史(広島大学)

15:30-16:00 「縄文土器編年とウイグルマッチング」

小林謙一（国立歴史民俗博物館）

16：00-16：30 「<sup>14</sup>C ウィグルマッチングの文化財建造物資料への応用」  
中尾七重（武蔵大学）

16：30-17：10 「総合討論」司会：辻 誠一郎（東京大学）

問い合わせ先：

中村俊夫（名古屋大学，nakamura@nendai.nagoya-u.ac.jp, Fax:052-789-3092）

辻 誠一郎（東京大学，s-tsuji@k.u-tokyo.ac.jp, Fax:03-5841-1352）

## J.Q.S. から論文投稿の依頼

日本第四紀学会会員の皆様へ

英国第四紀学会で出している Journal of Quaternary Science という雑誌に、アジアからもっと投稿して欲しいと言う内容の下記のメールが本学会に送られて来ました。

この雑誌は Impact factor の高いものなので、この要望に応えるように投稿すると掲載される可能性が高いと考えられますので、皆様の奮っての投稿をお勧め致します。

大場はJ.Q.S. のEditorial Advisory Board をしていますので、雑誌については下記のアドレスで見ることが出来ますが、質問など有りましたら直接本人 Dr. Chris Turney (turney@uow.edu.au) か私に (oba-tad@ees.hokudai.ac.jp) メールでお問い合わせ下さい。

大場忠道

Dear Sir,

I have recently been appointed as the Asian and Australasian editor for the Journal of Quaternary Science.

I 'd really like to develop a greater Asian presence in the journal and was wondering whether members of the Japan Association for Quaternary Research might consider us when they are next preparing a manuscript for publication?

We are increasing our turnaround times for publication and once accepted, papers are available online as ' in press '. We also have representatives at our office in Hong Kong who can help with English if this is a concern.

I hope this might be of some interest and if you 'd like any further information, please feel free to drop me an email.

With very best wishes,

Chris

## 日本地球惑星科学連合2007年大会のお知らせ

日本地球惑星科学連合2007年大会が下記のとおり開催されます。第四紀学とその関連セッションに会員多数の参加と発表を期待します。以下日本地球惑星科学連合ニュース第4号から抜粋。

## § 1 連合大会の概要

会期：2007年5月19日(土)～24日(木)  
(5月19・20日 一般公開プログラム)  
\*\*5月22日(火)評議会，大懇親会

会場：幕張メッセ 国際会議場

各種受付開始日・締切日

予稿集原稿投稿

2007/1/10(水)

～最終締切 2/14(水) 正午12:00

早期締切 2/7(水) 17:00

事前参加登録

2007/1/10(水)～4/13(金) 正午12:00

公費でのお支払申込(取りまとめ公費払いの場合も)

2007/1/10(水)～4/13(金) 正午12:00

会合申込

2007/3/12(月)～4/27(金)

\*\* お弁当申込

2007/4/23(月)～5/9(水) 幕張メッセへ

各種料金：

予稿集原稿投稿

早期投稿	2007/2/7 17:00まで	1,500円
通常投稿	2007/2/14 正午12:00まで	3,000円
図掲載	Webアップロード	500円

投稿料金は、新規投稿を終えた時点で課金されます。その後内容を変更されても料金は変わりません。

\*\* 図の掲載は、希望者のみ、投稿〆切時点の選肢で確定され、新規投稿料に加算されます。(これまで図の郵送も受け付けましたが、2007年大会より図の掲載はWebアップロードのみになります。ご了承ください。)

事前参加登録申込

全日程券	一般 13,000円 高等学校以下教員・学生 6,500円
24時間券	一般 7,000円 高等学校以下教員・学生 3,000円

\*\* 事前申込は4月13日12:00までにお済ませ下さい。これ以降は、当日参加登録申込となります。

\*\* 2007年大会より高等学校以下教員は、学生料金が適用されます。詳しいことはホームページにてご案内いたします。

当日参加登録申込

全日程券	一般 15,000円 高等学校以下教員・学生 8,000円
24時間券	一般 8,000円 高等学校以下教員・学生 5,000円

\*\* 学部生および70歳以上の方は、投稿の有無に関わらず参加登録が無料となります。

個人でのお支払方法：

個人によるお支払は、予稿集原稿投稿・事前参加登録と同時の オンラインシステムによるクレジットカードでのお支払いのみ可能です。(銀行振込・郵便振替はございません)

指定機関払：

「公費払」など登録者以外の方が支払う場合は、投稿・登録時の「決済方法登録画面」で「指定機関払登録」で、必要事項の入力を行って下さい。ホームページに入る前に、支払責任者(大会からの請求先)名、連絡先の確認をお願いします。ここで、ご入力いただいた内容で、後日請求書を送付します。さらに、機関毎でまとめてお支払いをご希望の場合は、各会計取りまとめのご担当者に速やかにご連絡いただき、ご担当者より、連合事務局へお申し出下さい。ただしこの場合、手数料としてお一人につき2,000円追加して請求させていただきます。ご了承ください。

請求書：

個人への投稿料金と参加登録料金の請求書の送付はありません。請求書の必要な方は、4月13日までに事務局へご連絡ください。

指定機関払いの請求書は、2月、3月、4月各月末締切、翌月中旬送付になります。

領収書：

クレジットカードによるお支払い手続きを終了された方へは、大会1週間前までにプログラ

ム等と一緒に送付いたします。領収書の日付は、大会開催日になります。

大会ホームページ：  
2007年連合大会に関する情報および各種登録ページが置かれています。

\*\*\*\*\*  
連合大会ホームページ  
<http://www.jpгу.org/meeting/>  
\*\*\*\*\*

詳しくは上記のホームページを是非ご覧下さい。変更内容の情報は随時更新します。

お問い合わせ先：  
各種登録システムサポート  
sys2007@jpгу.org

「登録ページにアクセスできない」  
「文字入力ができない」  
「確認メールが来ない」etc...  
個人情報登録・参加登録  
reg@jpгу.org

「ID & パスワード照会」  
「ID 削除したいとき」  
「参加登録変更 取消(要受付期間確認)」etc...  
セッション・予稿集原稿投稿  
abs2007@jpгу.org  
(但し、システムサポートは )  
会合の申込  
meet2007@jpгу.org

上記以外大会全般：  
(一般公開プログラム、展示、予稿集バックナンバー請求等)  
日本地球惑星科学連合 事務局  
〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16  
学会センタービル4F  
Email: office@jpгу.org  
Fax: 03-6914-2088

## § 2 開催セッションのご案内

2007年連合大会では、以下のセッション(企画中含む)が開催されることになりました。各セッションの詳細については連合大会ホームページ上に掲載している「セッション一覧」をご参照ください。

ご投稿者の皆様へ - 投稿受付期間について -  
講演要旨の投稿は2007/1/10 ~ 2/14の期間中に大会ホームページ上にて行って下さい。早期投稿にご協力をお願いするとともに、多くのご投稿をお待ちしております。

コンピーナの皆様へ - プログラム編集作業について -

大会プログラム編集作業は、投稿受付締切後、投稿論文の採択とプログラム編成作業が、2月中旬から3月初旬に集中的に行われます。セッション開催日程を含めコマの割り当て、セッション内の時間割などを決定する大切な作業をお願いすることになります。この期間中は、代表コンピーナご本人(もしくは代理の方)の連絡先を明確にし、必ず連絡が取れるようにして下さい。なお、代理をたてる場合は、代理の方の連絡先をプログラム委員会(2007pcom@jpгу.org)まで、予めお知らせ下さい。

インターナショナルセッションについて  
インターナショナルセッションでは、講演要旨、口頭発表およびポスター資料において原則として英語を使用します。但し、ポスター資料には英文に加えて和文を併記することも可とします。海外からの参加や国内外国人の参加を歓迎します。  
(セッション一覧の 印)

### 開催セッション一覧

#### 一般公開プログラム:(5セッション)

5月19日(土)~20日(日)は、小中高校生、一般の方々を対象に、以下のようなセッションを企画しております。詳細は大会ホームページ、プログラムに掲載いたします。また一般向けのポスターを作成し関係機関に広く配布する予定です。ご不明な点などは、事務局までお問合せください。

- ・地球・惑星科学トップセミナー
- ・高校生によるポスター発表
- ・21世紀のフロンティア
- テーマ ひので(SOLAR - B)が明かす太陽コロナの不思議
- テーマ 日本沈没を科学する:メガリスの滞留と崩壊を予測する
- ・地球惑星科学の教育とアウトリーチ(旧地学教育)
- ・キッチン地球科学
- セッション開催日:5月19日(土)~20日(日)
- 参加費:無料
- 参加申込・お問合せ:日本地球惑星科学連合事務局

#### Uユニオンセッション:(4セッション)

- ・北極域の科学
- ・地球惑星科学の明日を考える 男女共同参画の視点から
- ・日本におけるジオパーク活動の推進

・地球惑星科学の進むべき道

レギュラー・スペシャルセッション : (125  
セッション)

**B 地球生命科学**

- ・生命 - 水 - 鉱物相互作用の場的実態
- ・地球生命史
- ・アストロバイオロジー : 宇宙における生命起源・進化・分布と未来
- ・地球環境と生物の相互作用
- ・化学合成生態系の進化をめぐる

**C 地球化学**

- ・固体地球化学・惑星化学

**D 測地学**

- ・重力・ジオイド
- ・測地学一般
- ・地殻変動
- ・合成開口レーダー

**E 地球電磁気学**

- ・太陽圏・惑星間空間
- ・宇宙プラズマ理論・シミュレーション
- ・電気伝導度・地殻活動電磁気学
- ・地磁気・古地磁気
- ・磁気圏 - 電離圏結合
- ・宇宙天気
- ・電離圏・熱圏
- ・大気圏・熱圏下部
- ・磁気圏構造とダイナミクス
- ・地震・地殻活動に伴う電磁気現象
- ・IGY+50 過去から未来へ  
First Results from Solar B mission
- ・夢の再使用観測ロケットが拓く新しい科学

**F 大気・海洋学**

- ・大気化学
- ・成層圏過程とその気候影響の新展開
- ・モンスーンアジア水文気候研究計画 (MAH ASRI)
- ・人工湧昇流技術の応用 : CO<sub>2</sub> 固定能力の評価
- ・2005/06 冬季における大気・雪氷の顕著現象

**G 地質学**

- ・地域地質と構造発達史
- ・堆積物・堆積岩から読みとる地球表層環境情報
- ・放射性廃棄物処分と地球科学
- ・変形岩・変成岩とテクトニクス
- ・地球年代学・年代層序学
- ・西太平洋縁海域のガスハイドレートと関連現象
- ・モデル実験で探る地球表層環境ダイナミクス

**H 水文・陸水・地下水学**

- ・水循環・水環境
- ・同位体水文学 2007
- ・都市域の地下水・環境地質
- ・水循環に関わる物質輸送

**I 地球内部科学**

- ・地球構成物質のレオロジーと物質移動
- ・地球深部ダイナミクス : プレート・マントル・核の相互作用
- ・地球深部スラブ

**K 岩石・鉱物学**

- ・オフィオライトと海洋リソスフェア
- ・岩石・鉱物・資源
- ・鉱物の物理・化学
- ・中性子散乱による地球惑星科学の新展開

**L 地球環境・気候変動学**

- ・古気候・古海洋変動
- ・海と気候 - 過去から現代までの変動解明へのアプローチ
- ・低緯度域の気候変動と間接指標の開発
- ・地球温暖化防止のための地球惑星科学
- ・ヒマラヤ・チベットの上昇とアジアモンスーン  
21COE-EASTEC 太陽 - 地球気候結合 WS

**M 地球惑星圏学**

- ・惑星大気圏・電磁圏

**O 計測・探査技術**

- ・石油開発における地下情報のイメージング
- ・物理探査のフロンティア
- ・空中からの地球計測
- ・地下水と物理探査

**P 惑星科学**

- ・太陽系小天体の科学と今後の展望
- ・惑星科学
- ・宇宙惑星における固体物質の形成と進化
- ・火星
- ・始原惑星物質研究の新展開 : スターダスト +
- ・カウントダウン月探査
- ・太陽系天体の種別とその概念整理

**Q 第四紀学**

- ・第四紀
- ・沖積層研究の新展開
- ・GPR ( 地中レーダー ) を用いた浅層地下イメージングの現状と課題

**S 地震学**

- ・活断層と古地震
- ・地震に伴う諸現象
- ・地震発生の物理
- ・地震活動
- ・強震動・地震災害
- ・地震の理論・解析法
- ・地震計測・処理システム
- ・地震予知
- ・地震一般
- ・地盤構造・地盤震動
- ・震源過程・発震機構
- ・地殻構造
- ・陸域震源断層の深部すべり過程のモデル化
- ・首都圏の地震と強震動
- ・火山活動や沈み込み過程に伴う低周波振動現象
- ・地震波伝播 : 理論と応用
- ・アスペリティのマッピングとモニタリング

**T 地球惑星テクトニクス・ダイナミクス**

- ・地下温度構造・熱過程
- ・テクトニクス
- ・島弧・海嶺衝突帯のテクトニクスと火成作用
- ・地震学と構造地質学における応力逆解析手法とその活用
- ・プレート収束帯における地殻変形運動の統合的理解
- ・連動型巨大地震



## V 火山学

- ・活動的火山
- ・火山・火成活動とマグマ
- ・島弧マグマと揮発性物質
- ・火山の熱水系
- ・火山爆発のダイナミクス

## W 雪氷学

- ・雪氷学
- ・雪氷圏と気候
- ・コア研究が拓く地球環境変動史

## X 地理学

- ・人間環境と災害リスク

## Y 防災・応用地球科学

- ・地質ハザード・地質環境問題
- ・泥火山と泥噴出現象およびその応用地球科学的評価

## Z その他

- ・物質循環を基本とした人間生存環境
- ・断層帯のレオロジーと地震の発生過程
- ・地形
- ・大気電気一般
- ・環境リモートセンシング
- ・新しい地球観測衛星ALOSの現状と展望

## J 分野横断型セッション

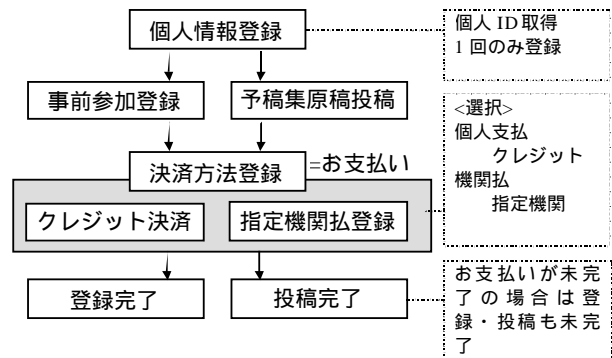
- ・地球流体力学：地球惑星現象への分野横断的アプローチ
- ・情報地球惑星科学
- ・地球惑星システム科学  
巨大地震発生帯の科学
- ・海洋底地球科学
- ・GIS（地理情報システム）
- ・地球惑星科学における地図・空間表現
- ・陸域の生物地球化学
- ・西太平洋海域の発達過程
- ・サンゴ礁の物質循環と研究手法：過去から現在まで
- ・生命を育む惑星の起源と進化
- ・小型衛星による宇宙科学
- ・遠洋域の進化
- ・宇宙環境と宇宙テクノロジー
- ・関東アスペリティ・プロジェクト：掘削とモニタリングに向けて
- ・地球掘削科学  
地質媒体における流体移動、物質移行及び環境評価
- ・デジタルアースと地球惑星科学  
...国際ショナルセッション

## § 3 各種登録について（変更・取消他）

連合大会ではまず最初に『個人情報登録』によって、ID番号を取得していただいております。その後で～の登録を必要に応じて行って下さい。

個人情報登録  
参加登録（事前申込）

予稿集原稿投稿（講演申込）  
オンラインクレジットカード支払登録（指定機関払登録）



## § 3.1 個人情報登録

連合大会への参加するための各種登録や、日本地球惑星科学連合からのお知らせを受取るためには、個人情報登録が必要です。登録は無料ですので、大会ホームページの『個人情報登録』にてご登録下さい。

ご登録後は、以下が可能になります。

- ・個人情報登録IDの発行
- ・ニュースレター(JGL)の送付（年4回）
- ・お知らせなどメールによる連絡
- ・連合大会の参加手続きの簡略化

連合大会において、以下の場合は、個人情報登録によって発行される個人IDが全員必要です。

- ・発表者
- ・予稿の著者および共著者
- ・参加者
- ・セッションコンピーナ(代表/共同)
- ・セッションの座長

\*\* ただし、既に登録済みで、ID番号をお持ちの方は大会毎に再度行う必要はありません。

\*\* 転勤・卒業等で住所変更が生じた場合も、ホームページ上の「個人情報登録」にて、所属・住所変更を行って下さい。

\*\* 今後、ニュースレターJGL、大会プログラム、予稿集CD-ROMなど送付は、送付物お届け先（〒番号、住所）と氏名になります。送付物お届け先住所は、住所のみでなく、具体的なお届け先機関名、建物名、部屋名など確実に受け取り可能な内容のご入力をお願いします。

<< 個人情報登録のために必要な情報 >>

- ・氏名(漢字,カタカナ,英語) 姓と名別々に
- ・E-mailアドレス
- ・所属学会(複数選択式)
- ・所属機関名(漢字,カタカナ,英語)

- ・所属機関名略称(漢字, 英語)(表示用)
- ・送付物お届け先(〒番号, 住所) そのまま送付ラベル
- ・昼間連絡がとれる連絡先電話番号
- ・身分(学生, 一般 選択式)

### § 3.2 参加登録(事前申込:4月13日正午12:00締切)

当日ご来場される方(発表者, 座長, 聴講・見学のみの方)は, 「参加登録」が必要です。大会当日会場へご入場の際には, 参加登録後郵送される名札をご着用していただきます。事前申込は当日申込(当日登録)より料金がお安くなっていますので, お勧めいたします。ただし, 会合のみに出られる方は参加登録の必要はありません。総合受付で会合用の名札を受け取り, ご着用をお願いします。

### § 3.3 予稿集原稿投稿(申込:2月14日正午12:00最終締切)

予稿集原稿投稿される方は, に加えて行って下さい。共著者も 『個人情報登録』のID番号が必要ですのでご注意下さい。当日発表のみされる方は 『参加登録』が必要です。

### § 3.4 オンラインクレジットカード支払登録

お支払いは, 予稿集原稿投稿・事前参加登録と同時にオンラインシステムによるクレジットカード(VISA, MASTER, ダイナース, JCB, AMEX)でお願いしております。

### § 3.5 変更・キャンセルについて 予稿集原稿投稿

2007/2/14(水) 正午12:00まで	変更	各自HPより行って下さい
	取消	
上記以降	変更	料金の返金はできません
	取消	

#### 事前参加登録

2007/4/13(金) 正午12:00まで	変更**	取消後、再登録して下さい 事務局までご連絡ください
	取消	
上記以降	変更	× 料金の返金はできません
	取消	

\*\* 変更を希望される場合は事務局へご連絡をお願いします。参加登録の取消は, WEB上では出来ません。事務局での取消作業完了の通

知がありましたら, 再登録をお願い致します。  
連絡方法: Email 又は FAX  
連絡先 : Email:reg@jpgu.org  
FAX:03-6914-2088  
(ご連絡時は個人情報ID番号もお知らせ下さい。)

## § 4 大会運営委員会からのお知らせ

### § 4.1 大会当日の受付時間について

大会期間中の受付時間, 場所は以下の通りに開設予定です。

総合受付・当日登録受付

5/19(土)~21(月) AM 8:00 ~ PM 5:00  
5/22(火)~24(木) AM 8:30 ~ PM 3:00  
1F エントランス正面, デスクおよびカウンター

### § 4.2 会場での名札着用をお願い

健全な財政を維持するために, 以下の事をお願い致します。

- (1) 事前お申込の方は, 大会前に送付された名札を忘れずに会場へご持参下さい。
- (2) 当日お申込の方は, まず当日登録受付にお立ち寄りになり精算を済ませた上で名札を受け取って参加してください。
- (3) 名札を着用せずに会場に入られた方には理由をお伺いします。

### § 4.3 団体展示・書籍出版・関連商品販売展示

連合大会では, 1Fラウンジ・2F中央ロビー及びホワイエにて, 研究団体・企業・出版社などによる研究紹介・書籍・機器などの展示ブースを設けております。21世紀COEプログラム拠点大学の展示もございます。様々な形でご活用頂き, 有効な情報交換の場としてご活用ください。ご利用希望の方は, 事務局へご連絡下さい。詳細(申し込み要綱)をご案内します。なお, お申し込みは定員に達し次第締め切ります。スペースに限りがございますので, お早めにお申し込み下さい。詳細は, 大会ホームページの「各種おしらせ」をご覧ください。

### § 4.4 大学インフォメーションパネル

連合大会期間中には, 多くの学部生, 高校生が参加されており, その数は年々増加の傾向にあります。そこで, 大学や学科・専攻, あるいは研究室の単位で, その研究や諸活動の紹介用パネルを設けます。学部生・高校生にとっては, 今後の進路を決める情報を得る場所とし

て、また各大学機関にとっては、学生・院生確保に、その魅力を十分アピールしていただきたいと思ひます。是非大学紹介及び大学院入試案内にご活用下さい。パネルは2枚をご用意いたします。詳細は事務局までお問い合わせ下さい。

#### § 4.5 各学協会の総会等の開催お申込

各学協会の総会などについては、一般の会合申込を受け付ける前に受付いたします。受付開始は、プログラム日程決定後、直接連合事務局へお申込下さい。2月末に、改めてご案内いたしますので、ご協力をお願いいたします。

なお、大会会期中の5月22日(火)には、評議会、EPS賞表彰式、大懇親会の開催を予定しています。総会等の日程設定時には、ご考慮をお願いいたします。

#### § 4.6 連合大会会場における会合申込み

会合・集会を行う団体の部屋使用希望の申し込みは、プログラム日程決定後下記の通り、先着順で受付しますのでお早めにお申込下さい。会場内の部屋数に限りがございますので、満室になった場合はできる限り会場周辺の会議施設をご紹介させていただきますが、やむを得ずご希望に添えない場合があります。ご了承ください。

なお、部屋使用料金、お弁当等の詳細はホームページの「会合のお申込み」をご覧ください。

お申し込み受付

2007/3/12(月)～4/27(金)

お申し込み方法及び申込内容

「会合のお申込」の専用ページにて、以下をご入力してお申込下さい。

- 1) 会合名称
- 2) 申込み責任者とそのメールアドレス
- 3) 利用人数
- 4) 希望する時間(開始・終了時刻)

なお、会合時のお弁当のお申込は、会合受付終了後、4/23(月)～5/9(水)幕張メッセお弁

当受付担当へ直接ご発注下さい。

#### § 4.7 大懇親会開催のお知らせ

日時:5月22日(火) 18:30～20:30

場所:1階レストラン 定員200名

会費:(事前)一般4,000円,学生1,500円

(当日)一般5,000円,学生2,500円

\*会費は当日会場受付にてお支払い下さい。

事前のお申込は、大会参加登録画面にてお願いいたします。定員に達し次第締め切らせていただきます。お早めにお申込下さい。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

#### § 4.8 保育希望の方へ

連合大会では、保育をご希望されます方へ、会場に隣接する千葉市認定保育施設をご紹介します。保育室の利用につきましては日本地球惑星科学連合より金銭的補助をいたしません。詳しくは大会ホームページ「各種お知らせ」にてご確認ください。

#### § 4.9 日本地球惑星科学連合2007年大会運営組織

大会運営委員長 津田敏隆(京都大学生存圏研究所)

副委員長 高橋幸弘(東北大学)

事務局長 岩上直幹(東京大学)

プログラム委員会

委員長 古村孝志(東京大学地震研究所)

副委員長 北 和之(茨城大学)

〃 渡辺真人(産業技術総合研究所)

情報局

局長 中川茂樹(東京大学地震研究所)

副局長 武井康子(東京大学地震研究所)

〃 西田 究(東京大学地震研究所)

大会運営委員会委員(略)

学会選出プログラム委員

\* 日本第四紀学会 奥村晃史(広島大学)(他略)

## 日本堆積学会 2007 年つくば例会・総会のご案内と講演募集

以下のように日本堆積学会の 2007 年例会が 2007 年 3 月 27 日～ 31 日につくばで開催されます。講演会場はつくば市の中心地に位置し、交通の便が非常に良く、東京から日帰りで行くことも可能です。みなさまお誘い合わせのうえ、多数ご参加ください。

- < 共催 > 産業技術総合研究所 地質調査総合センター
- < 日程 > 2007 年 3 月 27 日(火)～ 31 日(土)
  - 27 日(火) ショートコース
  - 28 日(水) 個人講演  
総会議事  
懇親会
  - 29 日(木) 個人講演  
最優秀個人講演および最優秀ポスター発表の表彰  
堆積学トーク・トーク
  - 30・31 日(金・土) 巡検
- < 講演会場 > つくばカピオ  
つくばエクスプレス終点「つくば駅」から徒歩 7～8 分です。
- < 例会参加費(講演要旨集込み) >
  - 一般会員 3,000 円, 学生・院生 2,000 円, 非会員 4,000 円
- < 個人講演募集 >
  - 口頭講演とポスター発表を募集します。
  - 講演申込締切: 2007 年 2 月 16 日(金)
  - 講演要旨締切: 2007 年 2 月 23 日(金)
- < ショートコース >
  - 泥質な開析谷充填堆積物の見学会 - 埼玉県中川低地の沖積層コアを題材に -
  - 3 月 27 日(火) 午後 産総研つくばセンター第 7 事業所 別棟大会議室
  - 講師: 田辺 晋(産総研)・石原与四郎(福岡大)・中島 礼(産総研)ほか
  - 産総研で掘削してきた沖積層コアの剥ぎ取り試料などを用いて、泥質な開析谷充填堆積物の堆積相の時空間分布を検討・解説します。初学者向き。
  - 参加費: 500 円(予定)
  - 定員: 20 名(学生優先, 先着順)
- < 巡検 > 千葉県九十九里浜およびその周辺の海浜と堆積物(1泊2日)
  - 集合: 3 月 30 日(金) 08:30 産総研第 7 事業所
  - 解散: 3 月 31 日(土) 16:00 JR 成田線「笹川駅」
  - 案内者: 田村 亨(産総研)ほか
  - 見学場所と対象: 千葉県九十九里浜の浜堤平野沖積層と現世海浜地形, 香取市の下総層群木下層。最終間氷期から現在までの海浜堆積物を, 露頭, ボーリングコア, 地中レーダー, 海底・陸上地形などから多角的に比較・検討します。
  - 移動手段: 貸切バス
  - 参加費: 15,000 円前後
  - 定員: 25 名(先着順)
  - その他: 1 日目の昼食・飲み物は各自ご持参ください。
- < 団体展示出展 >
  - 例会開催期間中, 例会会場にて企業・博物館・大学・研究グループによる展示出展が可能です。堆積学に関する研究や製品の紹介, 広報宣伝, 人材交流などにご利用ください。
- < 懇親会・懇親会プレゼンテーション >
  - 3 月 28 日(水) 18:00～20:00 つくばカピオ横 カフェ・ベルガ
  - 懇親会の際に有志希望者による話題提供のプレゼンテーションをしていただく機会を設けます。
- < 堆積学トーク・トーク >

3月29日(木) 17:00 ~ 19:00 つくばカピオ2階 中会議室  
 通常の講演よりもくだけた自由な雰囲気の中で研究発表や討論を楽しめます。簡単なプログラムを用意しますが、飛び入りも歓迎。2日目の個人講演のあと、講演賞の顕彰に引き続いて開催します。

各種申込先など、詳しくは日本堆積学会のホームページ(<http://sediment.jp/>)をご覧ください。

## 千葉県立中央博物館平成18年度春の展示のご案内

会期：2007年3月3日(土)～5月27日(日)

### 「山の科学画」

- 五百沢智也の描く山岳鳥瞰図の世界 -

氷河地形研究者であり山岳鳥瞰図作家として知られる五百沢智也氏(千葉県一宮町在住)は、1970～1980年代にかけて、山岳雑誌「岳人」や「山と渓谷」などに、日本アルプスやヒマラヤの鳥瞰図を連載し、1979年にはこれらの中の「氷の山・火の山シリーズ」をまとめ、「鳥瞰図譜＝日本アルプス アルプス・ハケ岳・富士山の地形誌」を出版しました。これらの作品は、飛行機から自分で撮影したステレオ写真を実体視する技術と、地形を見る確かな眼に基づいて描かれており、臨場感のある絵画として、また山岳地形、氷河地形の客観的な観察記録として高く評価されています。本展示会では、槍・穂高連峰などの日本アルプスや、ヒマラヤの山岳鳥瞰図を、その描き方や地形の解説を加えて系統的かつダイナミックに展示し、これらが大地のさまざまな営みによって長い時間をかけて造られてきた「地形の科学的な観察記録」であることを紹介します。

### 関連イベント

#### 講演会：

平成19年3月18日(日) 13:30-15:00

五百沢智也氏

「山の科学画 - 山を調べ・山を描く」 中央博物館講堂(先着200名)

#### シンポジウム：

平成19年4月21(土)、22(日)

寒冷地形談話会シンポジウム

中央博物館講堂(先着200名)

場所：千葉県立中央博物館

〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2(青葉の森公園内)

TEL:043-265-3879(担当 八木) FAX:043-266-2481

URL <http://www.chiba-muse.or.jp/NATURAL/>

協力：寒冷地形談話会

## 2006年度第3回幹事会議事録

日時：2006年11月18日(土)13:00～17:00

会場：早稲田大学教育学部地理演習室

出席者：町田 洋(会長)、真野勝友(副会長)、齋藤文紀、鈴木毅彦、池原 研、岡崎浩子、遠藤邦彦、水野清秀、中川庸幸、久保純子(記録)

### 報告・審議事項

#### 1. 庶務

・大学評価・学位授与機構から機関別認証評価に係る専門委員候補者の推薦依頼があり、太田陽子、大場忠道、陶野郁雄の3会員に打診することとした。  
・松島義章著『縄文の海と貝』(有隣堂)へ、第四紀研究13-3、17-4、20-44、22-3、23-2、38-6の図の転載を許可した。

#### 2. 会計

(特になし)

#### 3. 編集

・編集状況が報告された。  
・J-STAGE(電子ジャーナル)利用のための準備をおこなった。  
・第四紀研究46巻1号より印刷用紙を変更することとなった(製造中止のため)。  
・2006夏の大会シンポジウム特集号原稿の状況については、奥村編集委員長から各コンピナーへ確認をしていただく。

#### 4. 行事

・2007年神戸大会のシンポジウムと普及講演会の案について、会場校兵頭幹事より報告があった。

#### 5. 広報

・ホームページに「だいよんきQ&A」を設ける件について検討した。

#### 6. 渉外

・11/11-12 自然史学会連合(神奈川県立生命の星・地球博物館)ポスター展示の件

(報告)

・2007年連合大会におけるアウトリーチ活動アンケートについて検討した。

#### 7. 企画

・シンポジウム「自然史研究におけるフィールドの活用と保全」(2007年2月3日、日本大学文理学部)の準備状況が報告された。

・講習会「火山灰層を用いた調査法・分析法」(2007年1月27日・28日、滋賀県琵琶湖博物館ほか)の説明があった。

・その他、貝化石の調査法についても計画中である。

#### 8. 50周年記念事業実行委員会関連

・国際シンポジウム開催に関して科研費を申請した。  
・国際シンポジウムファーストサーキュラー、会場

(産総研講堂)の準備状況が報告された。

・産総研から代表者に実行委員に加わってもらうよう依頼する。

・大阪市立自然史博物館における学会紹介展示(12月1日～2007年1月31日)の準備をおこなった。

#### 9. 知的財産権等検討委員会

・阿部祥人、池原 研、上杉 陽、遠藤邦彦、坂上寛一、真野勝友各委員が就任した。

・第1回委員会は11月24日、日本大学文理学部にて開催の予定。

・幹事会からの諮問事項を確認した。

#### 10. 第四紀研究「論文賞」と「奨励賞」の設置と推薦論文の募集

・「第四紀通信」に掲載した。

#### 11. 学会賞検討委員会

・大場忠道、公文富士夫、小泉武栄、陶野郁雄、松浦秀治各委員が就任し、互選により陶野委員が委員長に選出された。

#### 12. その他

・論文賞・奨励賞選考委員の選挙(評議員)は2月の評議員会前に実施する。

・選挙管理委員の人選は次回の幹事会でおこなう。

次回幹事会予定：12月下旬

## 2006年度第4回幹事会議事録

日時：2006年12月23日(祝)10:30～14:00

会場：早稲田大学教育学部社会科資料室

出席者：町田 洋(会長)、真野勝友(副会長)、齋藤文紀、池原 研、岡崎浩子、兵頭政幸、遠藤邦彦、水野清秀、中川庸幸、久保純子(記録)

### 報告・審議事項

#### 1. 庶務

・前回議事録は後日作成、確認する。

・大学評価・学位授与機構機関別認証評価専門委員候補者推薦の件：太田陽子、大場忠道、陶野郁雄各会員より資料を提供していただいた。

・2007連合大会におけるアウトリーチ活動(公開実験等)の件は、他学会と調整の結果、見送りとなった。  
・北海道開拓記念館「北の縄文」特別展(後援)が終了した。

・北海道史研究協議会の要望書(本学会も賛同)が北海道知事へ提出された。

・元評議員青木 滋氏(2000年退会)逝去(11月29日)

・評議員会通知の件は、論文賞選考委員の被選挙人名簿のミスのため再送する。

・IYPE 国際惑星地球年2007-2009 開催宣言式典

(2007年1月22日)の協賛依頼を承認した。  
 ・人文地理学会『地理学文献目録』編集の件は庶務幹事より協力する旨回答する。  
 ・第5回火山都市国際会議(2007年11月19-23日)後援依頼を承認した。  
 ・国際地質科学連合理事会(2007年1月16-22日、奈良)参加依頼があり、熊井前会長に参加を依頼することとした。  
 ・転載許可  
 日本原子力開発機構プレス発表資料として、第四紀研究45-4の図の転載を承認した。

2. 会計  
 (特になし)

3. 編集  
 ・第四紀研究編集状況が報告された。  
 ・電子ジャーナル化に向け、非会員のアクセス制限、課金の有無について検討した。  
 ・2007年1月より実施の保証書と著作権譲渡同意書の事務手続きについて決定した。

4. 行事  
 ・2007年神戸大会の実施案について検討した。

5. 広報  
 ・ホームページのリンク先について検討した。  
 ・次号「通信」原稿締切(2007年1月9日)の確認。

6. 渉外  
 ・日本地球惑星科学連合評議員会(10月12日、吾妻 崇会員代理出席)の報告  
 ・自然史学会連合総会(12月9日、斎藤幹事長代理出席)報告  
 ・日本地球惑星科学連合男女共同参画委員として渡邊眞紀子会員に依頼した。  
 ・学術会議地球惑星科学委員会国際対応分科会(12月6日)報告  
 ・Journal of Quaternary Scienceからの問い合わせの件を検討した。

7. 企画  
 ・2月3日のシンポジウム準備の進捗状況報告及びポスター配布  
 ・第11回講習会(火山灰の研究法、2007年1月27・28日)申込状況  
 ・第12回講習会「貝化石群集を用いた古環境の復元法」(2007年3月10・11日、案)を承認した。

8. 50周年記念事業実行委員会(12月23日午後開催予定)  
 ・産総研からの実行委員追加について確認することとした。

9. 知的財産権等検討委員会  
 ・知的財産権等検討委員会への諮問事項を確認した。  
 ・上杉委員長より中間報告があった。  
 ・委員会に弁護士の出席を依頼する件で、予備費か

らの謝金支出を承認した。

10. 学会賞検討委員会  
 ・第1回委員会が12月18日に早稲田大学にて開催された。  
 ・次回委員会は2007年1月29日、お茶の水女子大学にて開催の予定。

11. その他  
 ・選挙管理委員候補者の人選をおこなった。

次回幹事会予定:1月24日(水)

訂正とお詫び

第四紀通信13巻6号に掲載しました、50周年記念事業募金者名簿に誤りがありました。  
関係者の皆さまに深くお詫びするとともに訂正させていただきます。

誤) 北爪 智浩

正) 北爪 智啓

第四紀学会 50周年記念事業実行委員会

第四紀通信に情報をお寄せ下さい

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。  
広報幹事：兵頭政幸(mhyodo@kobe-u.ac.jp)宛にメールでお送り下さい。  
第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月1日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が完成した段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月15日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 神戸大学内海域環境教育研究センター 兵頭政幸  
〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 電話 078-803-5734 Fax 078-803-5757  
広報委員：松下まり子・後藤秀昭 編集書記：岩本容子

第四紀学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr>から第四紀通信バックナンバーのPDFファイルを閲覧できます。